



韓国

◆ 米国との協力がベース

- 1997年 高速炉KALIMER (15/60/120万kWe; 金属燃料; プール型) の設計研究を開始
- 米国INLと連携(乾式法による使用済燃料試験を共同研究として米国にて実施中)
- 2008年12月 「将来炉に関する長期計画」を策定。2016年に軽水炉の使用済燃料貯蔵施設が満杯となるため、高速炉(金属燃料)と乾式処理施設を導入して、軽水炉使用済燃料を処理して削減する方針を提示
- 2012年5月、SFR開発機構(SFRA)を設立(2012~2019年の開発予算 3.6億ドル)
- 2012年8月~ 工学規模の乾式処理試験施設(PRIDE; 10t-HM/y) の試運転を開始(劣化U及び模擬物質利用)
- 2015年6月 **米韓改定原子力協定に両国が署名(発効待ちの状態)**。乾式再処理研究をする際の米国の個別同意が不要となり、協定で規定された韓国内のR&D施設であれば、PWR使用済燃料を用いたDUPIC燃料のR&Dや、乾式再処理の前処理までの試験は実施可能となったが、Puを分離する電解精製等については実施不可のままである。協定の有効期間は20年間
- 2028年 **高速原型炉PGSFR(15万kWe; 金属燃料; プール型)**を運転開始予定